

市民の声を、市政の力へ。
～ 声をカタチに 街のチカラに ～

現場で聞き、決断し、実現してきた4年間。
市民との約束は、「できること」を「実現すること」。
170を超える事業所、様々な会合やイベントに出向いて、たくさんの市民の声を市政へ反映。

「決断」と「実行」で市民生活を前へ
(給食費無償化・高校生まで医療費助成・大型遊具・火葬場整備など)
国・県との連携を強化し、必要な財源を確保
できないことは約束しません。実現できることを、責任を持って実行します。
次の4年も、実現できる約束を。

【大前提となる政策実行のための手段と財源の確保】

どのように素晴らしい政策も、その手段と財源が確保なされていなければ実行できません。
市民の皆さまや関係する団体・機関と密接な連携を保ち、しっかりと調整をしたうえで政策の実行性を担保します。

また、市内の経済状況、市政の財政状況を把握分析した上で、効果的で効率的な財政運営を実行するのに合わせ、交付税・補助金・負担金など県や国から財源を確保します。

『田中あきらのまちづくり』

財政の健全性と持続可能性を維持しながら、市民生活と地域経済を守るため、これまでの取り組みに継続性を持たせ、迅速かつ柔軟に各施策を展開していくために、何より愛するふるさと飛騨高山をもっと良いまちにしたい、そんな思いで次期市長選挙に立候補することを決意しました。

～全ては人のために～
人を育み未来につないでいきます

暮らす人、訪れる人が「しあわせ」を実感するまち飛騨高山

美しい自然や景観、伝統文化など、先人から受け継がれた有形無形の財産を守り、育て、次世代につなげていくのは人です。その人を育み、未来につながる飛騨高山を目指し、様々な挑戦に立ち向かって行きます。

【現場主義と現実主義＋決断】

○市民の皆さまの声・現場の皆さまの声の反映と対話の重視

4年間で医療、介護、教育、産業など多岐にわたる分野の事業所を訪問するとともに、様々な行事や場所において市民の皆さまから直接お聴きした期待や困りごとを、予算編成や具体的な施策に反映してきました。

○決断と実行

火葬場建設地の位置決定、サッカー場（人工芝）、原山市民公園への大型遊具、ごみ処理施設、野球場、市民プールなどの整備、給食費の無償化、高校3年生までの医療費無償化、荘川六厩の産業廃棄物最終処分場建設への反対表明等々、市民の皆さまの気持ちに寄り添った大きな決断をし、実行してきました。

また、国や県とのつながりを強め、顔の見える関係を築いたことで、様々な事業支援を受けたのに加え、しっかりとした国や県から財源の確保をしてきました。

【あきらが大切にしたいこと】

飛騨高山の人には、自然と向き合い暮らしてきた強さ、優しさがあり、これまで暮らす人にも訪ねてくる人にも心地よいまちをつくりあげてきました。

大切にしたいのは、ふるさと飛騨高山への思いです。「このまちに生まれて良かった」「学べて良かった」「働けて良かった」「暮らせて良かった」

そんな思いを持つ人が多くいるまちは、訪ねてみたい、暮らしてみたいまちとなり、多くの人とつながっていきます。

これからの4年間では、そうした人を育み、人に投資し、暮らす人、訪れる人が「しあわせ」を実感できるまちを目指します。

特にこだわる3箇条

I くらしを守る

【市民の皆さまの健康と命を守ることを最優先に、妥協しない医療体制を創ります】

これまで取り組んできた医療機関の垣根を超えた連携、未来の医療従事者の育成、最新技術の導入支援に加え、以下に取り組んでいきます。

◎二つの中核病院を一つにつなぐ「医療のセンター化」

現在、高山赤十字病院と久美愛厚生病院は、建物の老朽化や医師不足といった課題に直面しています。そこで、単なる建物や経営の統合ではなく、今いる医師や看護師、医療従事者という「地域の宝」を最大限に活かし、効率的で質の高い医療を安定して受けられる仕組みをつくるため二つの病院の機能を一つにまとめた「飛騨高山医療センター（仮称）」を構築します。

◎医療を志すなら一度は飛騨高山へ・医療に就くための環境整備

大学などと連携して飛騨高山の地で医師が研修できる環境をしっかりと整え、大学病院や民間とも連携し、あらゆる手段を講じて医師、看護師、薬剤師、理学療法士といった医療従事者を確保します。加えて、ソフトとハード面の受け入れ環境を整備し、「ここで働きたい」と医療従事者に選ばれるまちにします。

◎迷わせない！医療と介護の「ワンストップ窓口」の設置

救急、専門治療、リハビリ、そして介護。医師会、歯科医師会や薬剤師会などと連携して、これらの窓口の連携、一本化を図るとともに、IT（医療DX）、移動診療の導入も活用し、生まれる前から人生の最期まで途切れないネットワークを構築します。

◎「ありがとう」が響き合う、温かい医療・健康文化づくり

医療は、支える側と受ける側の信頼関係で成り立ちます。医療現場の声を市政に直接届ける場をつくり、日々命と向き合う医療従事者の皆さまへの感謝と尊敬の気持ちを、地域全体で育むことで、みんなで、健康な日常を支え合う、風土を創り出します。

◎みんなでつくる健康なまちづくり

心身ともに市民の皆さまが健康で毎日を暮らせるために、各種検診や保健指導、予防医療などの取り組みを強化します。また、健康なまちづくりの風土をみんなで創り出すために、健康地域宣言（歯、身体、心）を検討します。

◎医療と健康への投資には躊躇しない

財源もあらゆる手段で確保し、スピード感をもって安心できる医療体制を構築します。

【安心できる介護環境を構築します】

介護する人にも、介護を受ける人にも安心できる介護体制を構築します。

◎介護しやすい環境を整えます

介護に携わっている人、携わりたい人、介護職を目指す若い人などが、資格などを取得するための支援を提供します。

◎介護に携わる人の暮らしを支えます

介護に携わっている人が、やりがいをもって仕事が続けられるよう、処遇改善を継続・強化します。

◎医療から介護につなぐ環境を充実させます

医療から安心できる介護につなぐための環境を整備します。

【福祉の質の向上を目指します】

◎高齢者、障がい者、ひきこもり、生活困窮者が抱える課題や不安に対応するため、組織の壁をなくし、重層的な支援を行うとともに、自立に向けた支援を強化します

◎認知症予防を強化します

認知症にかからないための予防事業を強化するとともに、認知症に対する理解を深める「認知症フレンドリー社会」を実現します。

【子育て支援をさらに強化します】

◎子育てにかかる経済的な負担を軽減します

この4年間で実行した小中学校の給食費の完全無償化と高校卒業までの医療費助成を今後も継続します。

◎保護者の心身のケアに取り組みます

育児等で疲れている保護者のレスパイト（一時的休息）支援などを充実します。

◎生まれる前から成人期までの切れ目のない支援を提供します

◎こどもが安心して自分らしく過ごすことができる「居場所」を確保します

民間団体との連携などにより居場所となる環境の整備と利用促進により、だれ一人取り残さない地域づくりを進めます。

◎保育や幼児教育、その他多様な託児サービスの提供と必要な人材の確保と育成に取り組みます

◎安心して遊ばせることができる全天候型の「こどもの遊び場」を整備します

◎こどもの誕生や成長を共に喜び合える地域社会の実現を目指します

こどもを「地域の宝」として育み、こどもたちが「このまちで生まれて良かった」と実感できるまちを目指します。

【日々の暮らしを応援します】

◎暮らしと営み応援クーポン（商品券）を発行します

物価高騰が進む中、市内の様々な場所で利用できるクーポン（商品券）を発行し、市民の暮らし応援と市内消費の活性化を図ります。

【多様な教育環境を整え、こどもの育ちを応援します】

◎不登校対応の教育環境を、より一層充実させます

学びの多様化教室「にじ色」の設置、医療的視点を持つ「心のスクール検討委員会」の設置など、だれもが安心できる居場所の設置と不登校未然防止策の推進に取り組めます。

◎地域に根ざした多様な教育の実践を強化します

各学校において学校運営協議会や地域等と連携し、地域に根差した教育の実践を強化します。

◎開校を目指す朝日学園は学区を撤廃します

朝日学園（義務教育学校：1年生から9年生）を開校し、未来の高山を見据えた特色ある教育を進めるとともに、学区を撤廃し、市内のどこからでも通えるようにします。（荘川さくら学園では実施済）

◎幼稚園・保育園と小学校との円滑な連携関係を構築します

幼稚園・保育園と小学校が学びや生活基盤づくりで更なる連携と共通理解の強化を図り、切れ目のない支援と体制の充実を図ります。

◎新給食センターを整備します

新給食センターを整備し、地元の農産物等を使用し、安心して安全、美味しい給食を子どもたちに提供します。

【地域防災と減災への取り組みを強化します】

◎地域防災力の強化します

まちづくり協議会を中心とした地区防災計画の作成を促し、実践的な訓練や防災リーダーの育成を通じて、災害に強い地域をつくれます。

◎市民が安心できる消防・救急体制を確立します

消防団体制の維持や、医療機関と連携した搬送体制の整備により、市民の生命や財産を守ります。

Ⅱ いとなみを育てる

【「ものづくりのまち」を確立します】

飛騨高山は農畜産業から飛騨の家具に代表される木工、建築、製造業、食、有形無形のサービスまで、飛騨の匠のDNAを引き継いだものづくりのまちです。

これから、「ものづくりのまち」を支援する取り組みを強化して「飛騨の匠の技」と「いとなみ」を未来へつないで行きます。

◎ものづくりの連携を強化します

高山工業高校、飛騨高山高校、木工芸術スクールといった教育機関、岐阜県教育委員会と連携し、ものづくり教育環境をより充実させて、地域でものづくりに携わりやすい環境を整備します。

◎中小事業者の事業承継を支援します

◎「飛騨の匠」の継承を支援します

「飛騨の匠」の技を継承する人材を育て、次の世代につないでいくため、伝統建築をはじめ様々な分野において、必要な技術や資格の修得と継承をサポートするとともに、地域において活躍しやすい環境を整備します。

【日々の営みを応援します】

◎暮らしと営み応援クーポン（商品券）の発行します

物価高騰が進む中、市内の様々な場所で利用できるクーポン（商品券）を発行し、市民の暮らし応援と市内消費の活性化を図ります。

【農林畜産業を守り、育みます】

◎林業のサプライチェーンを確立します（山からまちへつなげる産業へ）

木の伐採（川上）から、木の製材（川中）、木工製品製造（川下）までのサプライチェーン確立を支援し、次世代につなぐ森林の価値を再構築します。

◎持続可能な農畜産業を確立します

新たな農業技術の導入や設備投資を支援することで生産性の向上を図り、持続可能な農畜産業の確立を目指します。また移住者や学生など新たな担い手の確保・定着を積極的に推進します。

◎農畜製品のブランドを強化します

飛騨牛、飛騨の野菜（蔬菜）、飛騨のコメなど農畜製品のブランド化を推進し、販売力の強化につなげます。

【伝統が息づくまちを守ります】

◎伝統を守り伝える新たな仕組みを構築します

地域で催されている例祭や地域に密着した伝統文化、伝統芸能を将来にわたって持続可能なものとするため、民間とともに必要な資金を調達する仕組みを構築し、人材の確保・育成につなげます。

【地域コミュニティの活性化を図ります】

◎町内会への加入を促進し、地域力強化につなげます

町内会を取り巻く環境の変化に合わせた見直しを行いつつ、防災や防犯など町内会の役割の重要性を周知し、加入を促進します。

◎地域特性に応じたまちづくりを推進します

日本一広い市域を有する飛騨高山には、地域ごとにそれぞれの文化や風習が継承されています。地域振興、福祉、教育、公共交通などの分野において、単一ではなく、それぞれの地域特性に応じた取り組みを支援し、住みたい場所で安心して暮らせるまちづくりを推進します。

【若者と女性が活躍できるまちをつくります】

◎元気な若者が集うまちを目指します

県下自治体で最多の移住・定住を更に促進するとともに、若者のチャレンジを応援し、元気な若者が集まるまちを目指します。

◎女性が輝くまちづくりを目指します

女性の起業や地域活動、事業所での労働環境改善を支援し、女性が活躍する地域社会を目指します。

◎労働環境の整備を促進します

DXの推進や最新技術の活用により生産性を向上させるとともに、多様な人材が働きがいを感じられる労働環境の整備を促進します。

◎若者の就業・創業支援の強化します

まちに活気を与えてくれる若者の就業・創業支援を強化します。

【観光と市民生活の共生を推進します】

◎宿泊税のまちづくりへの活用を進めます

令和7年度に導入した宿泊税については、必要な検証・見直しを行い、より市民生活の向上にも寄与する制度に改善を図っていきます。

◎市民の暮らしを尊重する観光を推進します

来訪者（外国人観光客）へのマナー遵守のための取り組みを強化します。また、ゲストハウス等の増加による市民生活への影響を軽減する取り組みやごみ処理などの環境を整備します。

◎市域全体の周遊を推進します

中心部のみならず市域全体の魅力発信、誘客促進、空き家を活用した滞在環境を強化し、観光客の市域全体の周遊を推進します。

◎観光を活用した持続可能な地域づくりを推進します

Ⅲまちを整える

【荘川町六厩（むまや）での産業廃棄物最終処分場建設に反対します】

昨年、反対を表明した荘川での産業廃棄物最終処分場建設について、「市としてできることはすべてやる」という意思と責任のもと、建設計画の白紙撤回に向け、法的・科学的根拠に基づいた対策などを実施します。

市内、富山県のような様々な団体、白川村、南砺市をはじめとする富山県の流域の市と連携した取り組みを強化します。

【暮らしを豊かにする環境を整備します】

◎芸術・文化・スポーツ・映画・芸能などを鑑賞・観戦する機会を創出します

様々な文化やスポーツなどに触れる機会を創出することで、暮らしの中にうるおいや心の豊かさを感じられるまちを目指します。

◎芸術・文化・スポーツ・映画・芸能活動への支援を行います

様々な文化やスポーツなどに取り組む市民の皆さまを支援することで、暮らしの中に生きがいや、やりがいを感じられるまちを目指します。

◎地元住民や周辺環境に十分配慮しながら、新火葬場建設を推進します。

【暮らしを守る、暮らしを便利にする基盤を整備します】

◎高速道路・高規格道路の整備を促進します

中部縦貫自動車道の早期開通に向けた建設促進や東海北陸自動車道4車線化の整備促進を国や関係機関に強力に働きかけます。

◎都市計画道路松之木千島線の整備を推進します

国や県からの財源を確保し、中心部の迂回機能も果たす、都市計画道路松之木千島線の整備を推進します。

◎河川整備を強化します

激甚化する豪雨災害に備え、河川のしゅんせつ工事を推進するとともに、神通砂防の整備工事促進を国に働きかけます。

◎上下水道の計画的に維持します

国や県からの財源を確保し、老朽化が進む上下水道管の布設替えを計画的に実施します。

◎インフラの景観活用を図ります

砂防堰堤、トンネル、インターチェンジ、橋梁といった社会インフラを、自然と融合した新たな景観として活用します。

◎飛騨高山にふさわしい景観を醸成します

市街地や周辺地域での街路樹や景観を守り、整備をすることで、飛騨高山にふさわしい景色を保全・創出します。

◎乗鞍岳、穂高連峰、御岳山など山岳エリアの保護と活用を推進します

【二酸化炭素排出量実質ゼロ（脱炭素社会）の早期達成を目指します】

◎地域との協働による中山間地域の河川を活用した小水力発電所の整備を推進します

◎豊富な森林資源を有効活用する木質バイオマスの熱利用を推進します

◎今年稼働を始めた新リサイクルセンターは環境に配慮し安定稼働するとともに、市民の環境教育・研修の拠点として活用します

◎自然エネルギーの地産地消と地域内資金循環を実現するまちづくりを推進します

【市民のための市役所を目指します】

◎より便利で利用しやすい市役所を目指します

D Xの活用や制度を見直すことで、行かなくてもよい市役所、書かなくてもよい市役所、情報が届きにくい人への配慮を実践し、市民の皆さまにとってより利用しやすい市役所となるよう取り組みを強化します。

◎職員を大切に育てます

より前向きで活発な議論ができる組織風土、働きやすくやりがいを感じられる職場をつくり、市民のためにがんばる市役所職員を大切に育てます。

【市政運営にあたって】

～飛騨高山らしさにこだわる市政運営～

地方公共団体は、住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うものとする。＜地方自治法第1条の2＞

地方公共団体の役割は市民の皆さまの「福祉の増進」であり、それ以上でも、それ以下でもありません。それを念頭に入れた上で、一時の現象や流行に右往左往しない、飛騨高山らしさを貫くことを強く意識した市政運営を行います。

また、社会や環境の変化が激しい中、今の行政運営に大切なものの一つに、これまで行政が持っていた物差しでは計りきれない部分をどう補うかという大きな課題があります。その課題を解決するには、社会の変化に敏感で、地域を知り尽くし、様々な分野で自主的・主体的に活動をしておられる市民、団体、事業所の皆さまとの連携が不可欠であると考えています。

そして、できないことは約束しません。

市民の皆さまとの連携をとおして、皆さまのニーズや要望の基となっている行政課題を的確に読み取り、政策に結び付けます。

【田中あきらのバックボーン】

＜バックボーン1（幸せって何？）＞

私は、若いころに一年間デンマークに住んでいたことがあります。デンマークを選んだのは、デンマークが、なぜ世界でも有数な幸せな国とされているのか、なぜ高福祉を実現できているのかに興味があったからです。

その理由は沢山ありました、徹底した平等主義、みんなで支える社会の構築、無駄をなくすことへの高い意識等々です。

こうしたデンマークでの体験は、私が幸せについていろいろ考える上でのバックボーンとなっています。

＜バックボーン2（地域振興って何？）＞

私は、最初に管理職になったとき、久々野地域に赴任しました。その後、久々野を離れ市全体の地域振興の責任者となり、高山のいろいろな地域を訪問するうちに、久々野での2年間を含めて、地域のことを真剣に考えて、自らの時間を削ってでも様々な地域の活動に真剣に携わる人に出会いました。ときには愛情をもって叱られ、一緒に喜ばれ、激励され、そして、地域の方から多くのことを学びました。

学んだのは「地域に入ることの大切さ」「市役所の役割は、地域の方々の思いを正確に読み解き、施策に反映すること」「地域振興の意味は、地域の特産品の創出にこだわることではなくて、その地で生業（なりわい）を続けられるようにすることを基軸に施策を組み立てて、実行すること」等々です。そして一番大切なこと「どんな施策も、一見、直接関係のないと思われるような人たちの生活や幸せにどうつながっているのか、最大限に想像しながら実行すること」を学びました。

市長になっても、それは全くブレていません。なぜなら、そうして学んだことが、バックボーンとなって私の心と身体にしみ込んでしまっているからです。